

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：23503

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26671012

研究課題名(和文)在宅における看取りを支える家族の介護力量アセスメント尺度の開発

研究課題名(英文) Development of a Family Caregiver Assessment Scale (FCAS) for people experiencing end of life at home.

研究代表者

稲垣 順子 (Junko, Inagaki)

山梨県立大学・看護学部・教授

研究者番号：20193542

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は、在宅の看取りを支える家族のアセスメント尺度を開発することである。返信のあった489のデータのうち性・年齢の記載があった389のデータを分析した。天井効果、フロア効果、正規性を確認した後、探索的因子分析を実施し、5因子19項目の尺度を開発した。I-T分析の結果、 $r=0.134-0.918$ ($P<0.01$)で、G-P分析の結果、各項目 $P<0.001$ であった。尺度全体のCronbach α : 0.888で、5因子のCronbach α は、0.810-0.927であった。また確認的因子分析の結果は、CFI : 0.901、RMSEA 0.09であった。

研究成果の概要(英文)：Aim: The aim of this study was to develop a tool, the Family Caregiver Assessment Scale (FCAS) for people experiencing end of life at home. Methods: Using our early version of FCAS, which was composed of 57 items, data from 389 family caregivers were statistically analyzed. Results: As a result of exploratory factor analysis after eliminating items with ceiling effect, floor effect, and non-normal distribution, a total of five factors with 19 items emerged. The item-total correlation coefficient was $r=0.134-0.918$ ($P<0.01$), and good-poor analysis showed significant differences ($P<0.001$) in all the 19 items. The Cronbach alpha coefficient of five factors were 0.810-0.927, and that of FCAS was 0.888. As results of confirmatory factor analysis, the Comparative fit index was 0.901, and the root mean square error of approximation was 0.09. As FACS was positively correlated with some of the components of Zarit Burden Interview.

研究分野：基礎看護学、在宅看護学

キーワード：在宅 家族の介護力量 アセスメント尺度 看取り

1. 研究開始当初の背景

近年、高齢社会が進む中で、要介護度の高い高齢者が増加に伴う医療費の増加が懸念されており、2006年医療制度改革では、厚生労働省は、在院日数の短縮化を効率的に実施するシステム構築を行った。現在、在宅療養を推進して、在宅で終末期を看取することができるような体制を急ピッチで整えている。在宅での看取りを実現させるためには、患者の意向をはじめとして、訪問看護師、医師の支援、親戚など周囲の者の支援が必要であるが、その中で、特に負担が大きいのは家族であり、患者を介護する家族の力量が問われる。これまで、介護力量に関する研究としては、認知症の介護者の介護力量を明らかにした研究がある。しかしながら、在宅における看取りを支える家族の介護力量は明らかにされていない。

これまで、研究代表者は、A県にある研究参加に同意が得られた訪問看護ステーションの訪問看護師のうち、在宅で看取りを経験した訪問看護師13名の在宅で看取った事例13例を半構成的面接で聴取し、テープに録音し、逐語記録を作成して介護力量のサブ概念を抽出した。そして、B県にある訪問看護ステーションの協力のもと、研究参加に同意を得た在宅で看取りを経験した12家族13事例について「在宅で看取るためにどのような力が必要でしたか」と尋ね、自由に語ってもらった。その後、その語りから介護力量のサブ概念と意味を分析し、被験者に返し確認した(2008年度在宅医療助成 勇美記念財団完了報告書)。その結果、在宅における看取りを支える家族の介護力量には、1.常時介護できる力、2.家族全体が看る力、3.病気である患者と合わせて生活する力、4.経済力、5.経済負担コントロール力、6.近隣・親戚のサポートを受ける力、7.社会資源の活用能力、8.健康維持力、9.患者に対する理解力、10.在宅で最期を迎える意志を貫く力、11.

介護関係構築・維持・促進力、12.看取りに対する自己効力、13.介護者役割引き受け力、14.介護(時間・負担)調整力、15.役割緊張緩和力、16.介護者のストレス発散力、17.情報収集力、18.日常のセルフケアに対する介護の実行力、19.病気・病状理解力、20.病気・病状に対する介護行動力、21.学習力、22.問題解決力、23.医療者との連携力、24.近隣の人とのコミュニケーション力、25.家から医療機関までのアクセス力、26.就業の調整力があることが明らかになった。

2. 研究の目的

在宅の看取りを支える家族のアセスメント尺度を開発することである。

3. 研究の方法

調査は、倫理審査委員会の承認を受けた後、C訪問看護事業協会に許可を受け、C訪問看護事業協会の4967箇所の訪問看護ステーションの管理者宛に調査の依頼文を送付し、同意が得られた訪問看護ステーションの在宅での看取りを実践している訪問看護師に質問紙調査を行った。また、家族には訪問看護師から依頼文に沿って研究の趣旨を説明して頂き、同意が得られた場合にのみ、Zarit介護負担尺度を家族に記入して頂いた。なお、Zarit介護負担尺度は開発者の許可を得て、使用した。

4. 研究成果

4967箇所の訪問看護ステーションのうち489箇所から返信があった。この中で、性・年齢の記載がある主介護者389名を対象として分析を行った。

天井効果、フロア効果、正規性を確認した後、探索的因子分析を実施し、5因子19項目から構成される尺度を開発した。I-T分析の結果、 $r=0.134-0.918(P<0.01)$ で、G-P分析の結果、各項目 $P<0.001$ であった。尺度全体のCronbach : 0.888で、5因子のCronbach は、0.810-0.927であり、本尺度は信頼性が高いこ

とが確認された。

また、本対象集団では、介護負担尺度 (Zarit 日本語版) は4因子15項目からなることが確認的因子分析で明らかになった。それぞれの因子と本研究で開発した在宅で看取りを支える家族のアセスメント尺度の相関を検討したところ、基準関連妥当性が高いことが確認された。さらに、確認的因子分析の結果、CFI: 0.901、RMSEA 0.09 と構成概念妥当性も高いことが確認された。

本尺度は、在宅での看取りが可能であるか否か、実践の場で医療従事者と家族が意思決定を下すための有意義な尺度になると考えられる。今後、在宅の看取りを支える家族のアセスメント尺度を開発に関する論文を投稿予定である。また、サブ解析で、他の要因との関連性や、共分散構造分析による潜在的な因果関係を明らかにし、在宅で看取りを支える家族の介護力量のエンパワメントプログラムを開発していく予定である。さらに本研究は、29th International Nursing Research Congress from 19- 23 July 2018 in Melbourne, Australiaで発表し、本尺度の海外Versionを他国の研究者と開発していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Chizuru Nagata, Hironori Yada and Junko Inagaki : Exploration of the factor structure of the burden experienced by individuals providing end-of-life care at home. Nursing Research and Practice, 査読有り, 2018 in press

〔学会発表〕(計1件)

Junko Inagaki, Chizuru Nagata, Etsuko Sato, Hironori Yada, Misaki Kumakura, Yuji Sindo, Rina Hakuta, Akiko Nishimura, Hromi Okubo, Kumiko Iguchi: Development of Family Caregiver Assessment Scale (FCAS) for people experiencing end of life at home, 29th International Nursing Research Congress, July 2018, in Melbourne

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲垣 順子 (INAGAKI Junko)
山梨県立大学・看護学部・教授
研究者番号: 20193542

(2) 研究分担者

永田 千鶴 (NAGATA Chizuru)
山口大学大学院医学系研究科・看護学専攻・教授
研究者番号: 50299666

佐藤 悦子 (SATO Etsuko)
山梨県立大学・看護学部・教授
研究者番号: 40279899

(3) 連携研究者

()
研究者番号:

(4) 研究協力者

矢田 浩紀 (YADA Hironori)
大村 令子 (OOMURA Reiko)
正司 和江 (SHIYOJI Kazue)
内田 典子 (UCHIDA Noriko)
中脇 由紀子 (NAKAWAKI Yukiko)
熊倉美咲 (KUMAKURA Misaki)
新藤裕治 (SHINDO Yuji)
白田 梨奈 (HAKUTA Rina)

西村 明子 (NISHIMURA Akiko)

大久保ひろ美 (OOKUBO Hiromi)

井口久美子 (IGUCHI Kumiko)